国際 IofC 本部の トラストビルディング活動

信頼構築の考え方と世界各地の実践

トラストビルディングとは、互いへの不信や偏見を乗り越え、協力できる関係を育てる取り組みです。国際 IofC 本部のプログラムは、一人ひとりの内面的な変化を、地域社会の和解と協働につなげることを目指しています。[1][2]



写真 1　インドネシアの若者による交流。出典：IofC International インドネシア紹介ページ [6]

国際本部と地域の人々が支えるプログラム

Initiatives of Change International（IofC International）の Trustbuilding Program（TBP）は、2019 年に始まった国際的なプログラムです。各地のチームが地域の事情に合わせて活動を担い、国際的なネットワークを通じて手法や経験を共有しています。[1][4]

対話を日常の行動につなげる

自分自身の思い込みに気づき、相手の経験に耳を傾け、信頼に足る行動を積み重ねることを重視します。過去の対立や傷ついた経験を理解し、安心して話せる場をつくることが、その土台になります。[2]

本資料は、教育関係者、企業、行政、協力団体および会員の皆様に向け、国際本部の役割と代表的な活動事例をまとめたものです。

国際本部の役割と活動の仕組み

国際本部は、地域で信頼構築を担う人材を育て、各国チームの学びをつなぐ役割を果たします。共通の考え方を持ちながら、実践は地域の文化や課題に合わせて組み立てます。[3][4]

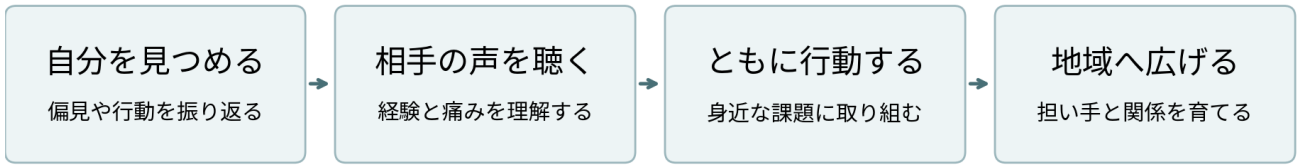


図 1　信頼構築の考え方を本資料で要約。固定的な実施手順ではなく、相互に関連する取り組みです。[2]

研修と実践を支える

米国リッチモンドでの人種間の和解活動を背景に、研修手法やトラストビルディング・マニュアルが整備されてきました。経験ある指導者が研修と設計を支え、各国の実践者を育成しています。[3]

経験の共有と活動の改善

国を越えた学び合いに加え、活動の実施状況や参加者の変化を記録し、評価に生かしています。参加人数だけでなく、対話や振り返りが人々の行動・関係にどう結びついたかを確かめます。[1][4]

公式サイトが公表するプログラム全体の実績

指標	公表値
活動が届いた人数 Total reach	26,100 人以上
研修を受けた人数	4,300 人以上
信頼構築の活動・催し	1,950 件以上
ボランティアによる活動時間	91,000 時間以上

出典：[1]。2026 年 11 月 8 日閲覧時の公表値。単年度実績ではありません。集計基準日や人数の重複除外方法は当該掲載箇所に明記されていないため、原資料の指標に沿って掲載しています。

外部評価から分かること

2024 年 12 月から 2025 年 4 月に実施された外部評価について、本部は複数の観点から成果が認められ、継続が推奨されたと報告しています。一方、社会制度や地域全体への長期的な影響はなお検証途上であり、成果の測定と説明の改善も課題とされています。[4]

インドの学校交流と教員育成

都市と農村の若者が、互いの暮らしや価値を知り、対等な関係を育てる活動です。学校と教員が関わることで、交流で得た学びを日々の教育へつなげています。[5]



写真 2　インドのトラストビルディング活動紹介に掲載された若者たち。出典：IofC International [5]

相手の生活を体験しながら学ぶ

都市の生徒が農村を訪れ、農村の生徒と田植えなどを体験します。農村の生徒も都市を訪れ、デジタル技術やコミュニケーションに触れます。対話の時間を設け、互いに抱いていた思い込みや、暮らしの違いを振り返ります。[5]

教員が信頼構築の担い手になる

教員にも研修を行い、学校で継続的に対話と相互理解を育てられるよう支援します。生徒の交流後も、学習の助け合いや連絡が続くなど、関係が日常生活へ広がった事例が報告されています。[5]

公式ページの公表指標	実績
直接参加した若者	1,000 人
信頼構築の活動	90 件超
研修を受けた教員	40 人超

出典：[5]。閲覧時の累計として掲載されている数値。集計期間は当該ページに明記されていません。

交流から生まれた協力

都市の学校から農村の学校へのパソコン提供や、都市の校内で農産物を販売する取り組みも報告されています。相手を理解する経験が、具体的な協力へつながる例です。[5]

アフリカでの対話と関係改善

ケニアで宗教や民族を越える



写真 3　ケニアの対話活動。出典：IofC International TBP 紹介ページ [1][7]

モンバサやガリッサなどで、異なる宗教・民族の人々が安心して語り合える場を設けています。大学や地域での対話に、宗教指導者の参加、スポーツ、植樹などを組み合わせ、相互理解を育てています。[7]

研修を受けた人々による地域の仲介や、平和と信頼を伝えるラジオ活動も紹介されています。参加者自身が次の担い手になることを目指しています。[7]

ナイジェリアで市民と警察をつなぐ



写真 4　Police I Care の活動紹介に掲載された警察関係者。出典：IofC International [1][8]

Police I Care は、市民と警察の間の不信を和らげる取り組みです。双方が率直に話す対話会に加え、警察署への訪問や研修を行い、相手の立場を理解し、地域の安全をともに支える関係を育てています。[8]

2025 年前半には、2 州で 4 回の警察署訪問を行い、150 人を超える警察官に活動が届いたと報告されています。[8]

歴史を聴き相互理解を育てる

オーストラリアの先住民との信頼構築



写真 5　オーストラリアの TBP 開始時の交流。出典：IofC International [1][9]

先住民の人々と、それ以外の人々が、植民地化の歴史や現在に残る課題に向き合う取り組みです。先住民と共同で設計する対話や体験型研修、歴史的な場所への訪問を通じて、語ることと聴くことの両方を大切にしています。[9]

アジアにおける宗教間の交流

インドネシアでは、キリスト教徒とイスラム教徒をはじめ、異なる背景を持つ若者がキャンプやワークショップに参加します。対話だけでなく、ボードゲームなどの参加しやすい教材を用い、宗教や文化に対する先入観を見直す機会をつくっています。1 ページの写真は、その交流の一場面です。[6]

日本の教育や国際交流に活かせる視点

以下は、各国の実践を踏まえた本資料の提案です。国際本部や日本協会が決定した事業計画ではありません。

教育では、交流の前後に自分の思い込みを振り返る時間を設け、教員も一緒に学ぶことが考えられます。訪問や体験を、継続的な関係づくりへ結びつけます。

企業や地域団体との連携では、立場の異なる人々が、相手の経験を聴く機会をつくれます。地域や職場の課題を題材に、対話の後の小さな共同活動へつなげる方法が考えられます。

東アジアの青少年交流では、歴史や文化の違いを尊重しながら、共同作業と振り返りを組み合わせることが考えられます。国際ネットワークの実践から学び、日本の状況に合う形を検討できます。

出典と写真の掲載元

IofC International の公式公開資料をもとに、日本語で要約・編集しました。閲覧日は 2026 年 11 月 8 日です。本文の角括弧の番号は、以下の資料に対応します。

[1] Trustbuilding Program

プログラム概要と全体実績
https://iofc.org/en/trustbuilding-program

[2] Trustbuilding Theory of Change

信頼構築の理念と方法
https://iofc.org/en/trustbuilding-theory-change

[3] TBP Impact Report 2023–2024

2025 年 4 月刊行　研修手法と国際的な支援体制
https://iofc.org/sites/default/files/2025-04/TBP-Impact-Report-2023-2024_website.pdf

[4] One Conversation at a Time

2026 年 5 月 21 日　外部評価に関する本部の記事
https://iofc.org/en/news/one-conversation-time

[5] India

都市と農村の交流　教員育成　写真 2
https://iofc.org/en/trustbuilding-india

[6] Indonesia

宗教間の青年交流　写真 1
https://iofc.org/en/trustbuilding-indonesia

[7] Kenya

宗教間・民族間の対話　写真 3 は資料 1 掲載
https://iofc.org/en/trustbuilding-kenya

[8] Nigeria

市民と警察の関係改善　写真 4 は資料 1 掲載
https://iofc.org/en/trustbuilding-nigeria

[9] Australia

先住民との対話　写真 5 は資料 1 掲載
https://iofc.org/en/trustbuilding-australia

写真と数値について

写真は公式サイトに掲載された実際の活動写真です。権利は各権利者に帰属します。写真の撮影日と各ページの実績集計期間は必ずしも一致しません。図 1 は公式の理念をもとに本資料用に作成した説明図です。

国別ページは現在および過去の活動を含みます。数値は原資料の表記に従い、期間や定義の異なる資料を合算していません。成果の事例は各チーム・参加者の報告であり、すべての参加者に同様の変化が生じることを示すものではありません。